

ESP教育の研究と開発

— 海事英語を出発点として —

坂本 育生 [鹿児島大学教育学部 (英語教育)]

A study and development of ESP education -Starting from maritime English teaching-

SAKAMOTO Ikuo

キーワード：ESP、海事英語、motivation

I はじめに

"go to sea" という熟語は、どのような意味を持つであろうか。通常「海」を表す "sea" には "the sea" と定冠詞の "the" が付属するのが普通であるが、"go to sea" の表現では "the" は付いていない。これは、"go to school" という表現に見られるように「生徒や教師が、教育という本来の目的のために学校へ行く」場合には、定冠詞の "the" は省略されるという原則に当てはまる。従って、"go to sea" という熟語は、「本来の目的のために海に行く」という意味で、「航海に出る」もしくは「船員になる」という意味を持つ。このような説明をすると、通常あまり英語に興味を示さない水産学部の学生も、自分の専門に関わる教材を使用すると、大きな興味を示す。また、この傾向は水産学部学生に限ったことではなく、多くの他学部学生にも当てはまる。

ところで、筆者が勤務する鹿児島大学においては、英語教育の一環として、共通教育としての英語教育 (EGP: English for General Purposes) と特殊目的のための英語教育 (ESP: English for Specific Purposes) に関連した専門英語教育を融合した取り組みを行っている。筆者は1984年以来、主に水産学部3、4年次における「海事英語」の授業を担当し、そのmotivationの高さに注目し、目下専門教育と英語教育を有機的に結合させた取り組みを目指している。

詳細は本論で述べるが、本研究論文は、科研費基盤研究C (一般) として平成22年度から24年度までを期限として採用された研究の中間報告でもある。これまでの主な研究成果としては、英語力も英語学習に対するmotivationも低いと言われる

水産学部生の場合でも、英語教育と専門教育と結びつけることにより、短期間でかなりの英語力向上の成果をあげることができた。

II 現在の日本内外における小・中・高・大の英語教育の動向と国際化の現状

現在、日本の英語教育は、大きな転換期を迎えている。具体的には2011年度に、小学校において「新学習指導要領」が実施され、「小学校外国語活動」が正式教科ではないが、道徳等と同様に「領域」として初めて正式に5、6年生の授業に導入された。中学校においては、2012年度から「新学習指導要領」が実施され、約30年ぶりに授業時間が週3時間から4時間に増加され、学習語彙も約900語から1200語に増え、教科書も大きく改訂される。さらに高等学校では、2006年1月から「大学入試センター試験」に「英語リスニングテスト」導入の事例もあり、コミュニケーション能力重視の傾向が一層強まった。その顕著な証拠として、2013年度から実施予定の「新学習指導要領」においては、「英語の授業を英語で行うことを原則とし、授業を実際のコミュニケーションの場とする」ことが提唱されている。

一方、厚生労働省の統計によると、近年の日本国内の国際化は著しく、2007年においては、在日外国人登録者数は過去最高の220万人に上り、国際結婚の比率も日本全国で5%を超え、東京都に限れば実に10%を数え、また日本国内で誕生する新生児の20人から30人に1人は両方、若しくは片方は外国人であるといわれている。1) 新学習指導要領に提唱されたコミュニケーション能力重視の英語教育は、まさにこのような日本の国際化の

現状を反映したものといえるであろう。

このような21世紀における国際化著しい時代において、次の世代を支える人材育成の任務を背負った大学における英語教育の現状はいかがであろうか。少子化による18歳人口の減少が顕著な中で、2007年度において大学全入時代を迎え、大学生の学力とmotivationの低下が叫ばれて久しい。具体的数値としては、TOEICを運営する国際コミュニケーション協会の統計においても、大学卒業生のTOEIC平均点は、2008年度で460点あまりとなっており、10年前の450点からほとんど向上していない。450から460点前後では、英語検定2級に合格するかしないか程度であり、英語によるコミュニケーション能力が備わっている、とみなされる600点には程遠い。2) 大学卒業生がこのような現状では、2003年以来文部科学省が唱えている「英語が使える日本人育成のための行動計画」が正常に機能しているとは言い難い。

Ⅲ 大学生に対しての動機付け対策

このような困難な大学英語教育の現状において、筆者が勤務する鹿兒島大学においては、1997年の教養部改組以来、共通教育英語に専門英語の授業を取り入れ、学生に対しての動機付け対策を図っている。冒頭においても若干触れたように、1997年の教養部改組以来、従来8単位必修であった第1外国語(主に英語)の単位数が、現在では6単位となり、削減された2単位を、多くの学部において、専門英語の形態で開講している。科目名としては、工学部機械工学科や電子工学科における「工学英語」や「電気・電子英語」、理学部における「科学英語」や「生物英語」さらには水産学部における「海事英語」等である。つまり、各学部、学科の専門に関連した、いわゆる「特殊目的のための英語教育(ESP: English for Specific Purposes)」が実践されている。3)

しかしながら、このような専門教育と英語教育を結びつけた教育方法が、具体的にどのような成果を達成してきたかについては、これまであまり明らかにされて来なかった。そのような現状において、特に大学生に対しての動機付け対策が、大きな課題であった。また、動機付け対策には学

生・教員のニーズを分析する必要もあった。

Ⅳ 水産学部学生・教員のニーズ分析

学生に対して満足の行く授業を提供するためには、当然のことながら、そのニーズ分析が必要である。坂本(2011)において、水産学部学生・教員に対して実施した調査結果は、主に次の通りである。

学生側からの主なニーズ

- 1) TOEFL、TOEICなどの実用的な資格対策、就職対策
- 2) 外国人との実際に話す機会
- 3) 一般英語と専門英語の橋渡しとなる教材
- 4) 英文論文作成のための基礎知識と技能
- 5) 専門的な論文を読むための基礎知識など

教員側からの主なニーズ

- 1) 英文講読の充実
- 2) 文法基礎事項の徹底した理解(5文型など)
- 3) 科学英語・水産関係英語の基礎知識
- 4) 自然科学分野での国際語としての英語学習の必要性の動機付けの徹底
- 5) 英文論文作成のための基礎知識

以上のデータから、資格対策や就職対策の項目で、若干の相違はあるが、概ね類似したニーズが必要とされていることが判明した。このような状況から、海事英語を出発点としてのESP教育の研究と開発は、水産学部学生に対しての動機付け対策として、かなり有効であると考えられた。

Ⅴ 海事英語活用による水産学部学生の英語力向上の取り組みと仮説

海事英語の授業は、主に学部2年から3年次の後期において実施されている。週1回しか開講されないため、短期間に大きな学力向上はなかなか困難な現状である。授業教材としては、巻末にある船員実務英会話教材とそのテープ、ビデオなどを使用し、コミュニケーション重視の実践的な授業を心がけ、予習を無理に課することはなく、復習中心に英語力の定着を心がけた。4) また、授業においては、参考文献村田(2005)に詳細に記述してあるが、日本が有する領土の11倍にも及

ぶ、領海および排他的経済水域の可能性、海洋開発の果たす将来の重要な役割などを強調し、水産学部学生の動機付けを図った。一般に入学時の偏差値は低く、当初はあまり英語学習に対してのmotivationが感じられない学生が多いのが現状であった。しかしながら、授業が進行するにつれて、次第に水産学部学生にとっての英語学習の意義が浸透してゆく姿勢が感じられた。

希望的仮説としては、海事英語を英語学習動機付けの引き金として、いわゆる受講生の「やる気」を起こさせることができれば幸いであると感じた。しかしながら、実際の学力向上において、どのような結果が得られるかは、全く未知数であった。

VI 成果と今後の課題

巻末資料のデータにあるように、学生の英語力を客観的に測定する「ものさし」としては、国際英検G-TELPレベル3を使用した。5) 今回の研究では、学生の1年次のデータと2010年12月1日、および2011年1月26日の2回のテストのデータを分析できたので、長期にわたる、大変意義深い研究が出来た。被験者の平均点は、1年次において、129/300点、であったものが、2010年12月1日においては：126.4/300点とダウンしていた。この傾向は、多くの大学生に見られるもので、一般に大学入学時の英語力は、時の経過とともに低下する傾向が見られる。

しかしながら、わずか2ヶ月あまりが経過した2011年1月26日のデータでは、158.7/300点という、かなりの成績アップの数値を示していた。もちろん個人差もあるが、最低得点は61ポイントから95ポイント向上し、最高得点は、186ポイントから212ポイントに向上した。このような顕著な数値は、筆者自身も予想しなかったことで、うれしい誤算であった。6) まさに、ESP教育が大学生の英語学習動機付けの引き金となり、大きな成果をあげることができた。

今回の研究では、ある程度の成果をあげることができたが、まだまだ1回の調査では信憑性は低い。今後さらに授業実践と研究を続け、別の被験者においても、同様の学力向上が見られるかどうか

かの検証を進めたいと考えている。

最後に、これまでの指導経験を鑑みると、やはり学生のmotivationの確立が最も重要であるように思われる。ひとたび学習者のmotivationが得られれば、あとは自ら進んで英語学習を継続してゆく傾向が顕著である。本研究が、学習者のmotivation 低下に悩む先生方にとって、何らかの指導指針となれば、筆者としては大きな喜びである。

(参考文献)

- Hutchinson, T, & Waters Allen (1987) English for Specific Purposes : A Learning Centered Approach. Cambridge University Press
- 深山晶子編集(2000)『E S P の理論と実践—これで日本の英語教育が変わる』 東京：三修社
- 石川晴一編集(1983)『I M C O 標準海事航海英語—述語と会話』 東京：成山堂書店
- JACET (大学英語教育学会) 教育問題研究会編集 (1998)『英語科教育の基礎と実践—新しい時代の英語教育をめざして—』 東京：株式会社三修社
- 鹿児島大学水産学部(2004)『水産学部履修の手引き』鹿児島：鹿児島大学水産学部
- 神戸商船大学海事用語辞典編集委員会(1998)『英和海事用語辞典』 東京：海文堂
- 森田勝之監修(1998)『国際英検G-TELP受験のための公式ガイドブッカーレベル3、4級』 東京：金星堂
- 森田俊樹、中井昇(2000) Basic Elements for Marine English 東京：海文堂書店
- 村田良平(2005)『海が日本の将来を決める』 東京：成山堂書店
- 日本郵船株式会社海務部編集(1993)『船員実務英会話』 東京：成山堂書店
- Paul Sminkey&Ikuo Sakamoto(1994) Gifts of the Sea. Tokyo: Nan' Un-Do
- 坂本育生、橋口美紀(2002)『海事英語指導の方略研究(Ⅲ)—鹿児島大学水産学部学生の指導事例について—』鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要 第12巻 pp. 127-133.
- 坂本育生(2007)『海技士英語問題の現状と問題点

について—ESP教育としての海事英語の改善を中心として—』鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要 第12巻 pp. 77-82.

坂本育生(2011) 『水産学部専門英語に関する基礎研究』鹿児島大学言語文化論集 VERBA No. 35 pp. 37-48

注)

- 1) 鹿児島県地方紙「南日本新聞」2008年8月24日付け論評「南風録」による。
- 2) 詳細はTOEICホームページ(<http://www.toEIC.or.jp>)参照。
- 3) ESP教育の動機付け対策としての有効性については、参考文献を参照。
- 4) 海事英語についてのその他の教材の詳細は、参考文献を参照。
- 5) 鹿児島大学においては、全学部の共通教育英語を担当する教育センターの指導で、成績の20%を国際英検(G-TELP)レベル3の点数を評価の一部として採用している。G-TELPレベル3は、大体TOEIC400点から600点に相当し、大学1、2年生の英語力評価としては、最も妥当な水準である。G-TELPレベル3に関する詳細は、参考文献を参照。
- 6) 2010年12月と2011年1月のテストでは、別のフォームを使用しているため、proficiency testのデータとしては信憑性の大きい客観的な数値といえる。また、受講生の中で、将来の船長や一等航海士を目指し、実際に海技士の国家試験を受験する学生も見られ、大きな学力向上が見られた。詳細は、巻末資料を参照。

巻末資料：海事英語教材およびG-TELP結果データ

Section 1: Entering port (入港)

Pilot: Lower the pilot ladder on the port side, please. (左舷のパイロットラダーを下げる。)

Deck hand: All right, is it all right at this height? (よろしい、この高さでよろしいか。)

Pilot: Lower it some more. (もう少し下げろ。)

Deck hand: Now, how is it? (さあ、これでいい

か。)

Pilot: Yes, that's good. Drop the heaving line to lift my bag. (はい、よろしい。かばんをあげる吊り上げラインを下ろしてくれ。)

Deck hand: OK, watch your head. I'm throwing it. (よろしい。頭に気をつけろ。)

Pilot: Where have you come from? (どこから来ましたか。)

3rd officer: From Yokka- ichi, Japan. (日本の四日市からです。)

Pilot: How long did it take you to reach here? (ここまでどのくらい、かかりましたか。)

3rd officer: Well, just 16 days. (ちょうど16日です。)

Pilot: How many knots does she make? (本船は何ノットだせますか。)

3rd officer: She gets 18 knots at service speed. This way, please. Captain, the pilot has boarded sir. (航海速度で18ノットです。こちらへどうぞ。船長、パイロットが乗船しました。)

(成山堂書店 「船員実務英会話」 pp. 4-5)

Section 6: Enquiring about port information (港灣事聴取)

Pilot: The birthing is finished, captain. We were lucky that the traffic was not congested. (船長、係留作業が終わりました。出入港船が多なくて幸いでした。)

Captain: Yes. And the visibility was very good, too. (そうですね。それに視界も非常によかったです。)

Pilot: Beautiful weather. But it's pretty cold this morning. (いい天気ですね。しかし今朝は大変寒いですね。)

Captain: Yes. We could use a cup of hot coffee. Will you come below to my room? (そうですね。暑いコーヒーが一杯欲しいですね。下の私の部屋でおいでください。)

Pilot: Thank you. (有難うございます。)

Captain: Do sit down. By the way, I want to ask you some information about this port, if you don't mind. (どうぞお掛けください。ところで、御差し支えなければ、この港について少々お聞きしたいと思えます。)

Pilot: Please do captain. (船長、どうぞ。)

Captain: What is your opinion about the largest size and deepest draught of vessel that can enter the port safely? (あなたのお考えでは、この港に安全に入港できる最大船型と最大喫水はどのくらいでしょうか。)

Pilot: Well, the draught is controlled by the bar in the channel. The depth above the bar is 27 feet at low water, and the maximum allowed draught is 30 feet at high tide. The vessel must have at least four feet of water under the keel at all times while under way. (そうですね。喫水は水路の途中にある浅瀬によって制限されています。浅瀬の水深は低潮時で27フィートで、許容最大喫水は高潮時で30フィートです。船は進行中に少なくともいつもキール(竜骨)の下に4フィートの水深がなければなりません。)

Captain: I see, what about the length and breadth? (わかりました。長さおよび幅はいかがですか。)

Pilot: Theoretically, there is no restriction on the length and breadth, but as the draught is limited, the maximum size of a vessel is usually considered to be 50,000 ton deadweight.

Larger vessel will have considerable difficulty in maneuvering even if the draught is not deep.

(理論的には、長さおよび幅には制限はありません。しかし、喫水が制限されているので、最大船型は通常5万重量トンと考えられています。それ以上の船だと、たとえ喫水は深くなくても、操船が

かなり困難になるでしょう。
〔「船員実務英会話」 pp. 12-13〕

鹿児島大学水産学部 1年次(7月受験)との比較.xls

2010/12/7
G-TELP日本事務局
Tel: 03-5952-5821

| | 1年7月時 | | | | 今回 (H22.12.1) | | | | 差 (伸び) | | | |
|----|-------|-----|-----|------------|---------------|-----|-----|------------|--------|------|-------|------------|
| | GRM | LST | RDG | TTL(G+L+R) | GRM | LST | RDG | TTL(G+L+R) | GRM | LST | RDG | TTL(G+L+R) |
| 1 | 18 | 33 | 46 | 97 | 45 | 25 | 33 | 103 | 27 | -8 | -13 | 6 |
| 2 | 73 | 46 | 62 | 181 | 73 | 42 | 50 | 165 | 0 | -4 | -12 | -16 |
| 3 | 45 | 33 | 38 | 116 | 45 | 42 | 46 | 133 | 0 | 9 | 8 | 17 |
| 4 | 23 | 25 | 33 | 81 | 18 | 42 | 29 | 89 | -5 | 17 | -4 | 8 |
| 5 | 14 | 33 | 25 | 72 | 23 | 33 | 21 | 77 | 9 | 0 | -4 | 5 |
| 6 | 64 | 38 | 58 | 160 | 45 | 29 | 46 | 120 | -19 | -9 | -12 | -40 |
| 7 | 64 | 42 | 50 | 156 | 50 | 50 | 75 | 175 | -14 | 8 | 25 | 19 |
| 8 | 68 | 42 | 62 | 172 | 77 | 42 | 67 | 186 | 9 | 0 | 5 | 14 |
| 9 | 50 | 17 | 38 | 105 | 55 | 29 | 33 | 117 | 5 | 12 | -5 | 12 |
| 10 | 59 | 21 | 50 | 130 | 64 | 38 | 42 | 144 | 5 | 17 | -8 | 14 |
| 11 | 68 | 29 | 42 | 139 | 23 | 17 | 21 | 61 | -45 | -12 | -21 | -78 |
| 12 | 36 | 33 | 29 | 98 | 45 | 38 | 38 | 121 | 9 | 5 | 9 | 23 |
| 13 | 41 | 46 | 42 | 129 | 32 | 29 | 38 | 99 | -9 | -17 | -4 | -30 |
| 14 | 42 | 42 | 46 | 120 | 23 | 21 | 58 | 102 | -9 | -21 | 12 | -18 |
| 15 | 64 | 38 | 50 | 152 | 73 | 33 | 50 | 156 | 9 | -5 | 0 | 4 |
| 16 | 68 | 42 | 46 | 156 | 73 | 33 | 54 | 160 | 5 | -9 | 8 | 4 |
| 17 | 45 | 17 | 38 | 100 | 41 | 33 | 29 | 103 | -4 | 16 | -9 | 3 |
| 18 | 50 | 17 | 38 | 105 | 55 | 42 | 46 | 143 | 5 | 25 | 8 | 38 |
| 19 | 73 | 50 | 54 | 177 | 73 | 29 | 46 | 148 | 0 | -21 | -8 | -29 |
| | 50 | 34 | 45 | 129 | 49 | 34 | 43 | 126 | -1.16 | 0.16 | -1.32 | -2.32 |

■基礎統計データ

| | 1年7月時 | | | | 今回 | | | |
|------------|----------|----------|----------|------------|----------|----------|------------|------------|
| | GRM | LST | RDG | TTL(G+L+R) | GRM | LST | RDG | TTL(G+L+R) |
| 平均 | 50.26316 | 33.89474 | 44.57895 | 128.736842 | 49.10526 | 34.05263 | 43.2631579 | 126.4211 |
| 標準偏差 | 4.325122 | 2.404789 | 2.367316 | 7.58686234 | 4.456348 | 1.912522 | 3.28459287 | 7.877095 |
| 中央値 (メジアン) | 50 | 33 | 46 | 129 | 45 | 33 | 46 | 121 |
| 最頻値 (モード) | 64 | 33 | 38 | 156 | 45 | 42 | 46 | 103 |
| 標準偏差 | 18.85277 | 10.48223 | 10.31889 | 33.0703662 | 19.42477 | 8.336491 | 14.3172084 | 34.33546 |
| 分散 | 355.4269 | 109.8772 | 106.4795 | 1093.64912 | 377.3216 | 69.49708 | 204.982456 | 1178.924 |
| 尖度 | -0.82671 | -0.95733 | -0.43449 | -1.1358611 | -1.18492 | -0.23064 | 0.11085572 | -0.74851 |
| 歪度 | -0.58306 | -0.40117 | 0.01709 | 0.02620955 | -0.07869 | -0.18825 | 0.42618421 | -0.07307 |
| 範囲 | 59 | 33 | 37 | 109 | 59 | 33 | 54 | 125 |
| 最小 | 14 | 17 | 25 | 72 | 18 | 17 | 21 | 61 |
| 最大 | 73 | 50 | 62 | 181 | 77 | 50 | 75 | 186 |
| 合計 | 955 | 644 | 847 | 2446 | 933 | 647 | 822 | 2402 |
| 標本数 | 19 | 19 | 19 | 19 | 19 | 19 | 19 | 19 |

鹿児島大学水産学部 (101201)

2011/2/1

G-TELP日本事務局
TEL: 03-5952-5821

G-TELP On demand Testing Quick Report

Test Date : 2011/01/26 Test Location : 鹿児島大学水産学部(110126)
 Level : 3 Test Form : 315
 Examinees : 16

1. 基礎統計

| 統計項目 | GRM | LST | RDG | TTL(G+L+R) |
|-------------|---------|---------|---------|------------|
| 標本数 | 16 | 16 | 16 | 16 |
| 平均 | 66.9 | 41.9 | 49.8 | 158.7 |
| 標準偏差 (n) | 17.137 | 11.261 | 12.095 | 31.156 |
| 標準偏差 (n-1) | 17.699 | 11.630 | 12.491 | 32.178 |
| 分散 (n) | 293.684 | 126.809 | 146.277 | 970.715 |
| 分散 (n-1) | 313.263 | 135.263 | 156.029 | 1035.429 |
| 最小値 | 32 | 25 | 29 | 95 |
| 中央値 | 69 | 42 | 48 | 158 |
| 最大値 | 91 | 62 | 67 | 212 |
| 範囲 | 59 | 37 | 38 | 117 |
| 第1四分位数 | 55 | 33 | 42 | 144 |
| 第3四分位数 | 82 | 48 | 59 | 175 |
| 歪度 | -0.627 | 0.233 | -0.104 | -0.289 |
| 尖度 | -0.455 | -0.862 | -0.862 | 0.140 |
| 変動係数 | 0.256 | 0.269 | 0.243 | 0.196 |

受験者成績一覧

受験者成績一覧 (TTL得点成績順)

| | GRM | LST | RDG | TTL (G+L+R) | | GRM | LST | RDG | TTL (G+L+R) |
|----|-----|-----|-----|-------------|----|-----|-----|-----|-------------|
| 1 | 64 | 58 | 67 | 189 | 1 | 91 | 54 | 67 | 212 |
| 2 | 50 | 62 | 50 | 162 | 2 | 86 | 58 | 62 | 206 |
| 3 | 64 | 38 | 46 | 148 | 3 | 82 | 42 | 67 | 191 |
| 4 | 55 | 38 | 58 | 151 | 4 | 64 | 58 | 67 | 189 |
| 5 | 36 | 25 | 42 | 103 | 5 | 82 | 42 | 46 | 170 |
| 6 | 55 | 33 | 50 | 138 | 6 | 64 | 46 | 58 | 168 |
| 7 | 91 | 54 | 67 | 212 | 7 | 73 | 46 | 46 | 165 |
| 8 | 73 | 29 | 42 | 144 | 8 | 50 | 62 | 50 | 162 |
| 9 | 73 | 46 | 46 | 165 | 9 | 82 | 42 | 29 | 153 |
| 10 | 64 | 46 | 58 | 168 | 10 | 55 | 38 | 58 | 151 |
| 11 | 32 | 25 | 38 | 95 | 11 | 64 | 38 | 46 | 148 |
| 12 | 86 | 58 | 62 | 206 | 12 | 73 | 29 | 42 | 144 |
| 13 | 82 | 42 | 29 | 153 | 13 | 82 | 33 | 29 | 144 |
| 14 | 82 | 42 | 67 | 191 | 14 | 55 | 33 | 50 | 138 |
| 15 | 82 | 33 | 29 | 144 | 15 | 36 | 25 | 42 | 103 |
| 16 | 82 | 42 | 46 | 170 | 16 | 32 | 25 | 38 | 95 |

2010/12/7

G-TELP日本事務局
TEL: 03-5952-5821

G-TELP On demand Testing Quick Report

Test Date : 2010/12/01 Test Location : 鹿兒島大学水産学部 (101201)
 Level : 3 Test Form : 313
 Examinees : 19

1. 基礎統計

| 統計項目 | GRM | LST | RDG | TTL (G+L+R) |
|-------------|---------|--------|---------|-------------|
| 標本数 | 19 | 19 | 19 | 19 |
| 平均 | 49.1 | 34.1 | 43.3 | 126.4 |
| 標準偏差 (n) | 18.907 | 8.114 | 13.935 | 33.420 |
| 標準偏差 (n-1) | 19.425 | 8.336 | 14.317 | 34.335 |
| 分散 (n) | 357.463 | 65.839 | 194.194 | 1116.875 |
| 分散 (n-1) | 377.322 | 69.497 | 204.982 | 1178.924 |
| 最小値 | 18 | 17 | 21 | 61 |
| 中央値 | 45 | 33 | 46 | 121 |
| 最大値 | 77 | 50 | 75 | 186 |
| 範囲 | 59 | 33 | 54 | 125 |
| 第1四分位数 | 37 | 29 | 33 | 103 |
| 第3四分位数 | 69 | 42 | 50 | 152 |
| 歪度 | -0.079 | -0.188 | 0.426 | -0.073 |
| 尖度 | -1.185 | -0.231 | 0.111 | -0.749 |
| 変動係数 | 0.385 | 0.238 | 0.322 | 0.264 |

受験者成績一覧

受験者成績一覧 (TTL得点成績順)

| | GRM | LST | RDG | TTL (G+L+R) | | GRM | LST | RDG | TTL (G+L+R) |
|----|-----|-----|-----|-------------|----|-----|-----|-----|-------------|
| 1 | 45 | 25 | 33 | 103 | 1 | 77 | 42 | 67 | 186 |
| 2 | 73 | 42 | 50 | 165 | 2 | 50 | 50 | 75 | 175 |
| 3 | 45 | 42 | 46 | 133 | 3 | 73 | 42 | 50 | 165 |
| 4 | 18 | 42 | 29 | 89 | 4 | 73 | 33 | 54 | 160 |
| 5 | 23 | 33 | 21 | 77 | 5 | 73 | 33 | 50 | 156 |
| 6 | 45 | 29 | 46 | 120 | 6 | 73 | 29 | 46 | 148 |
| 7 | 50 | 50 | 75 | 175 | 7 | 64 | 38 | 42 | 144 |
| 8 | 77 | 42 | 67 | 186 | 8 | 55 | 42 | 46 | 143 |
| 9 | 55 | 29 | 33 | 117 | 9 | 45 | 42 | 46 | 133 |
| 10 | 64 | 38 | 42 | 144 | 10 | 45 | 38 | 38 | 121 |
| 11 | 23 | 17 | 21 | 61 | 11 | 45 | 29 | 46 | 120 |
| 12 | 45 | 38 | 38 | 121 | 12 | 55 | 29 | 33 | 117 |
| 13 | 32 | 29 | 38 | 99 | 13 | 45 | 25 | 33 | 103 |
| 14 | 23 | 21 | 58 | 102 | 14 | 41 | 33 | 29 | 103 |
| 15 | 73 | 33 | 50 | 156 | 15 | 23 | 21 | 58 | 102 |
| 16 | 73 | 33 | 54 | 160 | 16 | 32 | 29 | 38 | 99 |
| 17 | 41 | 33 | 29 | 103 | 17 | 18 | 42 | 29 | 89 |
| 18 | 55 | 42 | 46 | 143 | 18 | 23 | 33 | 21 | 77 |
| 19 | 73 | 29 | 46 | 148 | 19 | 23 | 17 | 21 | 61 |